

第1回： 水辺のエコテクノロジーを考える

開催日： 1993年9月22日 / 会場： 「北とぴあ・飛鳥ホール」

開催趣旨： 身近な生活の中の生態系を含む環境の問題は、益々重視されるようになってきています。近年、各種の開発事業を行うに当たっては、環境保全及び自然生態系を考慮したコンセプトが不可欠になってきております。環境庁はもとより各省庁においても、水辺生態環境調査が全国レベルで行われるようになってきました。このような背景を受けて河川、湖沼、海浜の分野では、今、何がなされなければならないのか、真剣に水辺のエコテクノロジーとその技術を考える必要があります。こうした中で、従来、水質、水処理の技術を中心とした研究分野に主体が置かれてきましたが、生態系を含む技術について、現場と研究レベルを結ぶ討論を積み上げる必要性が高まり、このセミナーを企画しました。これをきっかけに広範な分野の方々が水辺のエコテクノロジーについて考え、議論する意義は大きなものがあると考えます。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ 水辺のエコテクノロジー（須藤隆一／東北大・工）

水圏の環境修復に広く適用可能なエコテクノロジー（生態工学）を紹介する。生態工学を活用した各種の直接浄化手法を解説し、同時にこれら各手法の課題・問題点などについて展望する。

○ 河川のエコテクノロジー（島谷幸宏／建設省・土木研）

多孔質化を特徴とする工法である多自然型河川整備が注目を集めている。河川生態系の特徴・河川における多様な水生生物の生息空間の重要性などを紹介し、多自然型河川整備という試みについて具体例を交えて概観する。

○ 湖沼の水辺（中島拓男／滋賀県琵琶湖研）

湖沼における生態的推移帯（エコトーン）である湖岸域に着目し、湖岸域における生物の多様性・水質浄化機能などについて解説する。湖岸改変の経緯と影響について、琵琶湖の事例を挙げながら構成要素別に詳説する。

○ 海浜のエコテクノロジー（栗原康／奥羽大・歯）

海洋における水辺について類型分けし、海岸の砂浜、ラグーンや感潮河川の岸辺、干潟、塩性湿地、マングローブ地帯など潮間帯の生態系機能を紹介する。蒲生干潟の事例を挙げて水環境と生物の関連からエコテクノロジーを解説する。